

12月末に調査した2006年1月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。
2006年1月の消費意欲は、先月から4.1ポイント減少し、
53.5点でした。

1月の数字としては、2002年以降での最高値を記録。

「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

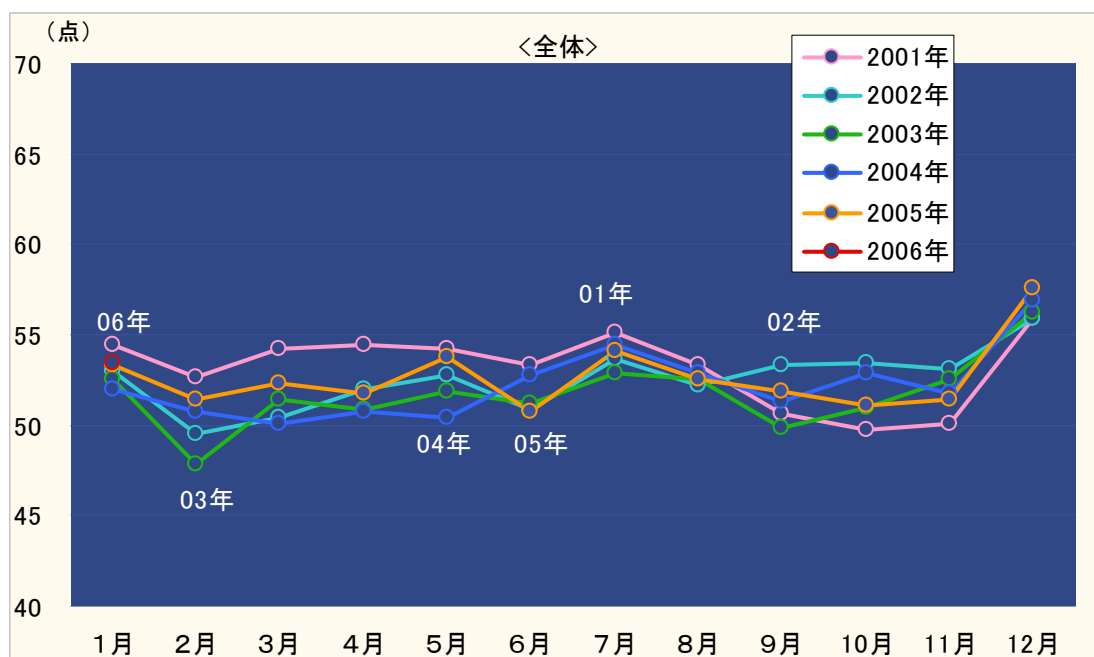
12月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者420名に対し「消費意欲(モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求)が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの1月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか?」と質問した結果が、「1月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

2006年1月の消費意欲指数は、先月から4.1ポイント減少し、53.5点でした。

1月の消費意欲指数は、先月から4.1ポイント減少し、53.5点となりました。例年、12月に数値が高くなることの反動で、1月の指数は減少する傾向にあり、今月も先月比で減少となりました。しかしながら、前年同月比で見ると0.2ポイントの増加となっており、1月の指数としては2002年以降で最高の数値です。消費意欲指数を全体的に見れば、2006年は好調な出足と言えそうです。

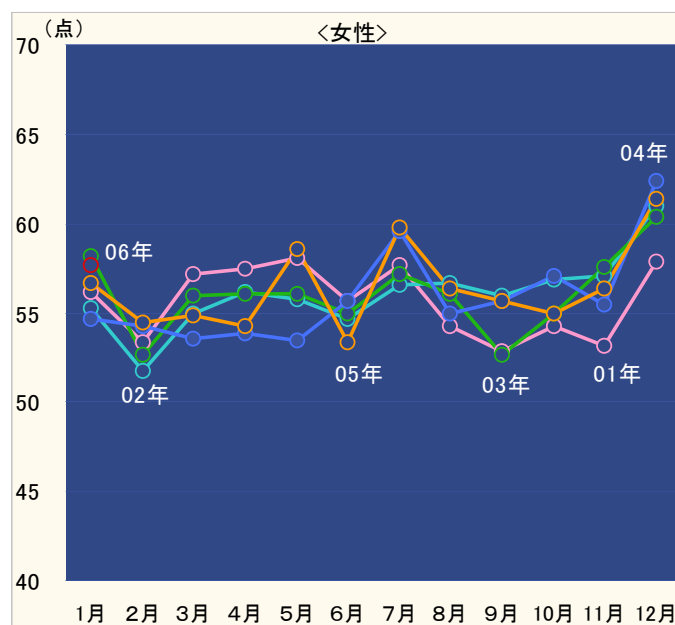
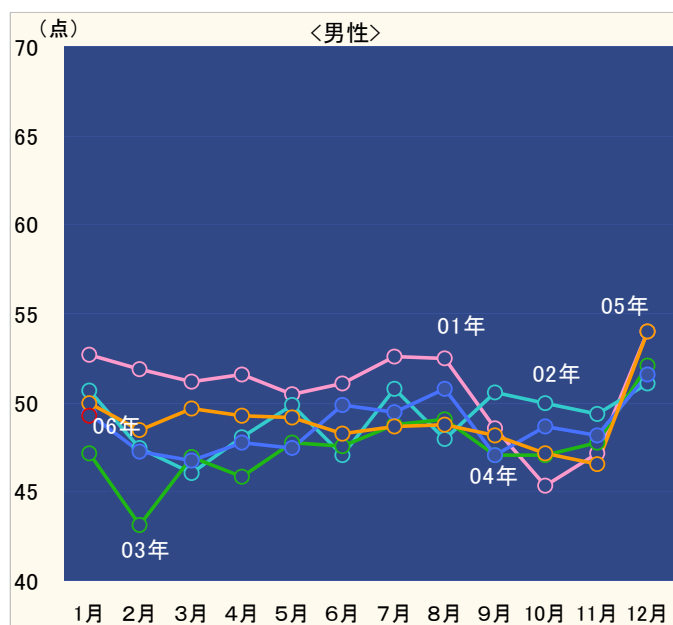
今年に入って株式市場が不安定な動向で、先行きに不透明感もあるため、2月以降の消費意欲の動きを注意深く見守りたいところです。



前年同月比で女性の消費意欲は上昇し、好調なスタートとなる。

1月の男女別の消費意欲指数を見ると、先月比では男女ともに減少しており、男性が - 4.8ポイントの49.2点、女性が - 3.7ポイントの57.7点となりました。ただし、前年同月比は男性が - 0.8ポイント、女性が + 1.0ポイントでした。特に女性については、1月の指数としてはここ3年間で最高の数値となっています。

同時に調査をしている生活力点の「買い物」行動を見ると、12月に昨年度最高値を記録した「大きな値の張る買い物」の数値が男女とも大幅に減少しています。年末に過去最高といわれたボーナスで大型商品購入や旅行にお金を使い、1月は消費は控えめに、という心境なのでしょうか。こうした心理面の動きが1月の消費意欲指数の減少につながっていると考えられそうです。



博報堂生活総合研究所のHP (www.athill.com)では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要: HILL ネット調査】

調査地域: 首都圏 / 調査対象者: 19~73才の男女個人 420人 / 調査方法: 郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所 (03-3233-6450) までお願いいたします。

